楽たま通信

平成30年度
No.29

良城小
2018/11/10
増野

自主性を育てるために　６年生の音楽会の取組から

昨日午前中に見た６年生の音楽会での素晴らしい姿にまたまた涙が出てきました。

市民会館の大ホールという大きな舞台を包み込む歌声と抑揚の効いた迫力ある演奏は、１４４人の児童（市内最多、次は平川小の１３９人）と指導する教員が一体となった素晴らしいものでした。

今年は入院していたため、本校を含め３校しか見ることが出来ませんでしたので、明確な比較は出来ませんが、演奏後に音楽部の代表校長から舞台裏で、「さすが良城は違うね。」という賞賛の声をいただいたことからも、出色の素晴らしさだったことは間違いありません。

人数が大きければ良い演奏が出来るわけではありません。良城だからこそのこれまでの積み上げと、本年度の内田学年主任を中心とする担任の先生方と音楽担当の金坂先生の指導があってこそです。

校内音楽会が終わってもさらに１週間練習を重ねてこられた先生方に感謝の拍手を送ります。本当にありがとうございました。

ところで、今回の６年生の合唱の指導について、内田先生から次のようなお話を伺いました。

本校児童の課題について、「自主、進んで学ぶ」という「児童の自主性の伸張」を訴えてきましたが、内田先生はそれを受けて、本年度の合唱では合唱の初期段階で、どうやったらさらにうまく歌えるかをパートごとに自主的に練習させたというお話でした。

自主性を育てることはとても難しい課題ですが、このような日常の指導の見直しと継続こそが、児童を少しずつですが本質的に変えていくのだと感じました。

他の学年でも、生活科や総合の体験活動の見直しや毎日の算数授業の指導、係活動などにおいて、自主性の伸張という難しい課題への挑戦が見られることを大変うれしく思っています。きっと何年か後には、先生の話も聞くけれど、自分の意見もはっきりと言えるような子が増えてくるのではないでしょうか。

課題の解決は日々意識しておかないと絶対に出来ないと思いますので、今後とも各学年で意識して進めてください。

※私が学級担任時代に実践していた係活動で自主性を育む取組を紹介します。

係活動は、黒板係や窓開け係などの日常のルーティンワークを分担する当番活動とは明確に分ける必要があると思います。この２つを混同し、児童をどちらかに振り分けては絶対にだめです。

当番活動は当番活動として、まずは全員で分担します。

その上で、それ以外で、このクラスを隣のクラスと違う楽しくてたまらないクラスにするために自分たちでやってみたいことを係活動として企画運営させました。お楽しみ会社、新聞会社、生き物会社、小物づくり会社、教室飾り会社などなど。特に生き物会社はすさまじかったですね。教室が水槽でいっぱいになり、最後は蛇まで飼いましたから。休日明けは、天井をカニがはっていたこともあり、毎日がドラマでした。

教室の後ろ掲示版も係活動に開放し、各係は日々広報活動を繰り広げていました。

本校でも、３－１の藤原先生はこれに近い活動をされています。３－１の子どもたちはそれは意欲的ですよ。

特に若い先生方は、このような自分の学級だからこその係活動に積極的に取り組んでほしいと思います。大規模校で独自色を出せるのはここですよ。ここは学年でそろえる必要はありませんから。